

コード番号 C117

講習名	【選択】防災教育のために知る原発震災・大川小津波被災の教訓				
開設日時	8月29日(火)	担当講師	林 衛		
会場	富山大学(五福キャンパス)	募集人数	30人	時間数	6時間
認定対象職種	教諭・養護教諭	主な受講対象者	小学校、中学校・高等学校(特に国語・社会・理科)教諭、養護教諭		
受講料	6,000円	受講料以外の経費	なし		
講習の概要 緊急事態では、学校の教員組織の一体となった協力関係が求められる。一方、情報不足が決断を遅らせる事態も発生する。東日本大震災・原発震災では、巨大津波や原発事故の影響で学校現場でも被害や影響が広がった。学校現場で何が起こったのか、宮城県石巻市立大川小学校や福島県の事例を取り上げ、学校防災・防災教育のために必要な学校での備えを参加者で検討する。					
到達目標及びテーマ マニュアルがあっても、その想定を越えた事態が生じるのが自然災害の特性である。事態対応のために教員に求められる判断・決断が何であるのか、ケーススタディを通して分析、検討する。阪神・淡路大震災、熊本地震の教訓、想定される北陸大震災についても紹介。学んだ知識(防災の場合では、震度やマグニチュード、活断層など)を覚えるだけでなく、生かせるようにするための日常授業の改善法も示す。					
講習の授業計画 1. (9:00-10:20) その時、大川小学校校庭で何が生じていたのか 2. (10:30-11:50) なぜ「天災は忘れた頃にやってくる」のか―「忘災」の原因に目を向けよう 3. (12:50-14:10) 低線量被曝問題が混乱を続ける原因―市民社会の中での理性のはたらき 4. (14:20-15:40) 公教育の役割と疑問を励ます教科教育の重要性 5. (16:00-16:40) 筆記試験					
テキスト	お盆休みの前までに適宜メールにてお知らせする。PDFファイルで提供予定。				
参考資料等	お盆休みの前までに適宜メールにてお知らせする。				
修了認定(試験)の方法	記試験を実施する(人数が少ない場合は、効果を確認される口頭試問を採り入れる)。筆記試験の中には、討論型授業の設計、勤務校の状況に応じた防災体制についての設問が含まれる場合もある。				
留意事項 (各自で準備するものなど)	当日の講習時間を有効に使うために、お知らせしたテキスト、参考資料に目を通した上で、検討してもらいたい事項をメールで連絡します。8月4日(金)までに以下の宛先メールアドレスをお知らせください。 メール宛先: hayasci@edu.u-toyama.ac.jp(林)				
備考	前年度「C115【選択】防災教育のために知る原発震災・大川小津波被災の教訓」受講者(履修認定済)は受講不可				